

# 浜松医科大学 国際交流後援会誌

第 18 号 (令和 4 年 11 月発行)



## ご 挨拶

浜松医科大学国際交流後援会 理事長 海野 直樹

浜松医科大学 (HUSM) 国際交流後援会は「国際交流及びグローバル人材の育成」を支援する目的で設立され、学内・学外 (団体・個人) の寄附金により後援会事業を行っていましたが、平成 28 年度でこの運営は終了し、平成 29 年度から浜松医科大学の国際交流事業は浜松医科大学基金の「国際交流及びグローバル人材育成への支援事業」からの資金提供及び大学運営費交付金により推進しています。本後援会は平成 29 年度以降も浜松医科大学の国際交流の現況をより多く知っていただくように引き続き後援会誌を発行しています。新型コロナウイルス (COVID-19) 感染の世界的蔓延は一向に収まることはなく、そのような状況下で実施されました浜松医科大学における令和 3 年度国際交流事業の活動実績の概要をご報告いたします。

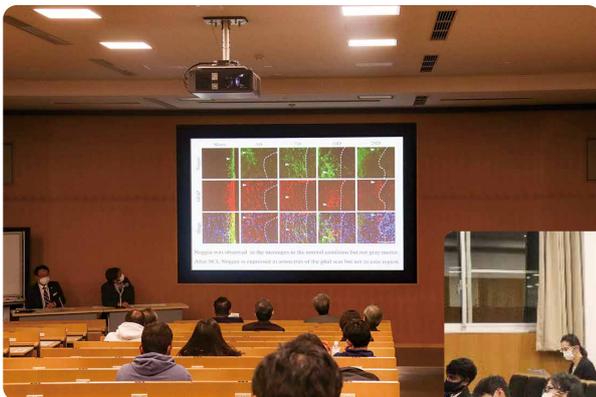
まず、外国人留学生への奨学事業として、令和 3 年度は新たな入学者を含む私費外国人留学生 24 名に対し、勉学に専念できるように合計 25,600 千円を奨学金として給付しました。その

一方で、短期留学として海外の学術交流協定校から交換留学生を受入れ、日本で安心して勉学に打ち込めるよう支援する予定でしたが、日本国政府の水際措置で短期滞在の交換留学生の受入れはできませんでした。また、グローバル人材育成事業としての海外留学支援についても、浜松医科大学学生が海外臨床実習に行くことは叶いませんでした。しかしながら、国際化推進センターでは、コロナ禍であっても実施可能なオンラインによる事業として、外国人研究者の指導を受けながら浜松医科大学医学科学生が英語の学術論文を読解し発表する Journal Club の実施や、米国医師免許試験 (USMLE) 対策の学習モジュールを活用した、医学科学生が自由に参加できる医学英語のグループ学習により、医学英語を学ぶ機会を提供しました。また、浜松医科大学で学んだ卒業大学院留学生 (同窓生) の帰国後のフォローアップや、同窓生、指導教員などとの交流ができる場として、新たに HUSM International Alumni Network (オ

オンラインコミュニケーションツールのワークスペースを利用)を開設し、同窓生の現況報告や浜松医科大学の最新情報の発信を常時行える環境を整えています。その他の事業については、令和3年度事業報告をご覧ください。

本稿執筆の令和4年9月上旬時点でも、COVID-19変異株(オミクロンBA-5)によるこれまでで最大規模の感染第7波が全国を襲っており、医療体制が逼迫しています。1日も早く感染アウトブレイクが収束し、グローバルな交流活動が再開されることを望みます。最後になりますが、浜松医科大学国際交流事業につきましては、引き続き皆様のご理解ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

< 留学生研究報告会 令和3年11月10日 >



< 外国人留学生等への日本語課外補講の実施風景 >



## 国際サービスラーニングにおける現状と課題



浜松医科大学 総合人間科学講座 英語  
特任講師

国際化推進センター職員

Michael Boyce

医学生の充実した教育を支えるには、もはや医療実習だけでは不十分です。

そんな思いから、2021年秋に国際サービスラーニングコース（ISL）をパイロットプログラムとして再スタートさせました。後期には、ボランティアの学生と医師を中心とした多職種チームが協力し、浜松医科大学（HUSM）の医学生・看護学生とケニア・ナイロビのコロゴチョ（非公式居住区）の小学校をつなぐ8週間のオンラインによるリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）プログラムの基本教材を構築しました。



10年以上前から国際的な研究によって、医学教育におけるサービス・ラーニング・プログラムの明確な利点が裏付けられています。現在、日本では高等教育におけるサービスラーニングへの関心が高まっていますが、未だ多くの医療系大学では、十分な理解と資金がサポートされているサービスラーニングプログラムの内包する大きな可能性を認識していません。

サービス・ラーニングとは、地域社会への奉仕と教育現場での学習を意図的に両立させることです。奉仕とはボランティア活動とも言えますが、

私たちの場合は、ケニアの小学生に性的関係のリスクと責任について教育することです。このようなオンラインと現地におけるケニアでの体験を通じて、ISLの学生は多様性、包括性、社会正義について学びます。奉仕活動という体験的な側面がなければ、大学生は真の意味で学ぶことはできません。学びがなければ、学生は国内外を問わず、地域社会に対して効果的に奉仕することはできません。

後期のプログラムの成功に続き2022年春には、11の講義に加えて8週間の2つのオンラインリプロダクティブ・ヘルス・トレーニングセッションを含む完全なサービス・ラーニング・プログラムを導入しました。新しいISLプログラムは、エビデンスに基づき、異文化理解、体験学習、集中的な内省に重点を置いています。この多分野をまたいだアプローチは、国際的な仕事の複雑さとそれに伴う知的・感情的な発達を通して、学生を導くのに役立ちます。



ポジティブ心理学、効果的利他主義、コンフリクトマネジメント、認知的不協和、社会的学習空間、センスメイキング、システム論、リーダーシップトレーニングなどの本質的なトピックをカバーする私たちのプログラムの講義は、すべて英語環境で行われます。このような内容と実際の英語の教育環境によって、学生はケニアの小学校でオンライン指導を行うための準備を行います。

8週間のリプロダクティブ・ヘルス・プログラムは、基本的なコンピューターリテラシーの指導から始まり、衛生管理、体の仕組み、生殖器、月経と思春期、ライフプラン、STI（性病）などへと発展していきます。オンライン授業は、授業時間が25分、各セッションの小学生が26名と限られていますが、オンラインセッションの前後に、予習や復習などを含めた彼らの学習をサポートするオンラインコンテンツを少しずつ増やしていきたいと考えています。生徒数1400人の学校で、26人ずつの2セッションは小さく見えるかもしれませんが、オンラインコンテンツの改善と学校内での生徒間（peer-to-peer）の指導を通じて、私たちは成果を上げています。現在、ケニア



の学校には13台のコンピューターしかなく、小学生は2人組、あるいは3人組で1台を使用するため、1クラスの人数は26人に制限されています。学校にはもっと多くのコンピューターを設置するスペースがあり、そうすれば各セッションでより多くの小学生にプログラムを提供できます。しかし、残念ながらコンピューターを追加購入する資金がないため、プログラムの普及には限界があるのが現状です。

幸いなことに、ISLの学生たちは毎年ケニアへ行き、各地でリプロダクティブ・ヘルスの授業を行う機会を得ることができました。学生は16回のオンラインセッションを通して指導技術を身につけることで、現地ではより多くの小学生に、より質の良い教育を提供することができます。また、HUSMの学生たちはケニア滞在中の残りの時間を使って、診療所での見学と研究課題の探索を行う予定です。

国際的なサービス・ラーニング・プログラムがHUSMの医学教育プログラムにもたらす価値は計りしれませんが、公的機関であるため、このようなプロジェクトの資金は非常に限られています。プログラムとして、財政的な支援、教育的な支援（電子機器など）、専門的なアドバイスを提供してくれる医療教育における指導者を常に歓迎いたします。

プログラムの詳細、またはHUSM国際サービス・ラーニング・プログラムの発展・拡大のための財政的・教育的支援については、[www.husmisl.org](http://www.husmisl.org) までお寄せください。本プログラムにご関心いただき、ありがとうございます。皆様の幅広いご支援をお待ちしております。



## 浜松医科大学国際交流後援会役員等名簿

※敬称略

(令和4年10月現在)

	氏 名	職 名 等
名誉理事長	小 林 隆 夫	浜松医療センター 名誉院長
名 誉 理 事	市 山 新	浜松医科大学 名誉教授
〃	山 口 貴 司	山口ハート国際クリニック 元院長

	氏 名	職 名 等
理 事 長	海 野 直 樹	浜松医療センター 院長 浜松医科大学特定教授
副 理 事 長	滝 浪 實	一般社団法人浜松市医師会 会長
理 事	中 村 捷 二	株式会社サーラコーポレーション 相談役
〃	守 田 泰 男	遠州信用金庫 理事長
〃	岡 本 弘 美	国際ソロプチミスト浜松 会長
〃	袴 田 辰 則	浜松医科大学後援会 会長
〃	青 木 善 治	社会福祉法人聖隷福祉事業団 理事長
〃	滝 浪 實	浜松医科大学同窓会松門会 会長
〃	山 下 寛 奈	浜松医科大学看護学科同窓会 会長
〃	山 口 智 之	医療法人社団泰誠会大脇産婦人科医院 理事長
〃	小 出 幸 夫	医療法人社団一穂会西山ウエルケア 施設長
顧 問	今 野 弘 之	浜松医科大学 学長
〃	山 本 清 二	浜松医科大学 理事 (教育・産学連携担当)
〃	河 本 雅 弘	浜松医科大学 理事 (財務担当)・事務局長
〃	木 戸 芳 史	浜松医科大学 臨床看護学講座 教授
〃	才 津 浩 智	浜松医科大学 国際化推進センター長
〃	山 下 美 保	浜松医科大学 国際化推進センター特任講師

# 令和3年度 事業報告

## 留学生支援事業

- ・博士課程大学院留学生への奨学金給付  
私費外国人留学生 24 名に奨学金給付

国名	人数
中国	14名
バングラデシュ	4名
ベトナム	4名
ルワンダ	1名
インド	1名
計	24名

## 国際交流事業

- ・留学生研究報告会（令和3年11月10日）

例年の新入留学生のウェルカムイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、大学院留学生3年生10名による、研究報告会のみを実施した。

参加人数：42名



## 国際交流事業

### ・留学生インタビュー（令和3年11月30日浜松医科大学オンデマンドへ掲載済み）

各国の在学留学生へ英語でインタビューを実施した。撮影したインタビューは本学 Web 動画サイト「浜松医科大学オンデマンド」へ掲載した。

バングラデシュ、ベトナム、中国から各1名

**Ch.6 国際交流 > 留学生インタビュー**  
登録番組数 12 本 サブチャンネルアクセス数 1099 アクセス

**International Student Interview**  
International Student Interview (留学生インタビュー) ・ Bangladesh ・ Ariful Islam  
浜松医科大学大学院博士課程に在籍している外国人留学生のうち、各国1名の代表から本学での研究や生活など...  
362 アクセス  
2021.11.30

**International Student Interview**  
International Student Interview (留学生インタビュー) ・ Vietnam ・ Do Huu Chi  
浜松医科大学大学院博士課程に在籍している外国人留学生のうち、各国1名の代表から本学での研究や生活など...  
256 アクセス  
2021.11.30

**International Student Interview**  
International Student Interview (留学生インタビュー) ・ Vietnam ・ Do Huu Chi  
浜松医科大学大学院博士課程に在籍している外国人留学生のうち、各国1名の代表から本学での研究や生活など...  
170 アクセス  
2021.11.30

**International Student Interview**  
International Student Interview (留学生インタビュー) ・ China ・ Zhang Chi  
浜松医科大学大学院博士課程に在籍している外国人留学生のうち、各国1名の代表から本学での研究や生活など...  
170 アクセス  
2021.11.30

### ・ Journal Clubへの参加（令和3年8月4日、12月1日オンライン開催）

光創起イノベーション研究拠点が主催する、外国人研究者の指導を受けながら、静岡大学・浜松医科大学の学生が英語の学術論文を読解し発表する会。

<浜松医科大学発表学生>

（8月4日）医学科3年 1名、医学科1年 1名

（12月1日）医学科3年 1名、大学院留学生3年 1名



## ■ 国際交流事業

### ・ さくらサイエンスプログラム (令和3年12月15日)

インドネシアの高校生を静岡県に招聘する「さくらサイエンスプログラム」が、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、代わりに静岡県内各高等教育機関のオンライン講義がインドネシア共和国西ジャワ州の高校生に向けて開催された。

＜本学からは細胞分子解剖学講座の瀬藤光利教授が英語で講義を実施＞



◀ 瀬藤光利教授  
(写真右下)

### ・ 国際交流のつどい (令和4年3月)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催は中止となったが、例年会場で配布している「卒業予定・新入留学生のこぼれ」を作成し、浜松医科大学国際交流後援会理事の方々、地域の方々、その他国際交流関係者へ送付した。

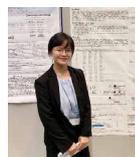
1st year Doctoral Degree Program student  
Orthopaedic Surgery Department  
大学院医学系研究科博士課程1年  
整形外科学講座



Dinh Thi Phuong Hoai

My name is Dinh Thi Phuong Hoai, from the beautiful country of Vietnam. I am a 1-year postgraduate of the orthopaedic surgery department, Hamamatsu University School of Medicine. I am very grateful to receive a scholarship program from Hamamatsu University School of Medicine on the topic essay about spinal cord injury, which I extremely love, because the rate of spinal cord injury due to traffic accidents is very high in developing countries, especially in Vietnam, causing many complications. After completing my graduate studies at Hue University of Medicine and Pharmacy, Vietnam I feel the urge to pursue the postgraduate program at Hamamatsu University School of Medicine, Japan, which has a long tradition in scientific research and education, especially in the field of the nerves' functions. It was my pleasure to get help from Professor Matsuyama Yukihiko with my favorite topic of spinal cord injury, but then the Covid-19 pandemic has been delaying my entry to Japan. I am now waiting for the Japanese Embassy in Vietnam to reopen visa services so that I can come to Japan to realize my greatest dream. During this time, with the great help of the officers in the international student department regarding online learning, I learned a lot about the Japanese people, and I felt the Japanese spirit of caring and supporting students in any situation, which warms me up and makes me positive that I can come to Japan in the near future. And I hope to share what I have learned in Vietnam with my friends abroad. I am looking forward to coming to Japan soon.

4th year Doctoral Degree Program student  
Tumor Pathology Department  
大学院医学系研究科博士課程4年  
腫瘍病理学講座



Hu De

生涯の宝物 大学院2年目、学会参加時

日本にきた初日のワクワク感、ドキドキ感をまだ覚えています、あっという間に数年が経ちました。

育ちや言葉も文化も違う国にきた最初は、壁にぶつかるのが普通なことです。悲しい事や寂しい事はもちろんありましたが、今思い出せば笑ってしまう事もたくさんありました。すべてが貴重な思い出になると思います。そして何より、周りの優しい日本人からの支えもあり、頑張ってそれらの壁を乗り越えたことが一番大切な経験になり、きっとこれからの人生に役に立つと思います。

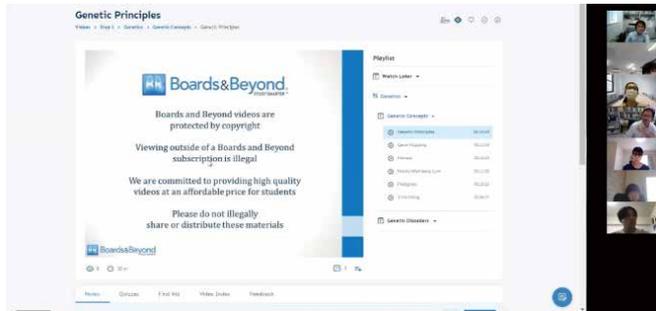
日本での生活に慣れていくうちに、感じることも増えてきました。故郷にも四季がありますが、日本人の四季に対する感覚がとても素晴らしいと思います。四季にはそれぞれを代表するお花があったり、それぞれの時期に行事があったり、また旬を大切に作る和食からさえ四季を感じられます。日本人は四季の移り変わりを感ぜながら日々を過ごしているため物事を大切にできる心を持っているのではないかと思います。生活のあらゆる面で感じられる日本人の丁寧さ、そして繊細さが心に響きます。これは日本に住まないで深く感じられないことだと思います。「百聞は一見にしかず」というのがこのようなことですね。

## ■ グローバル人材育成事業

### ・ 医学英語のグループ学習を実施（令和3年9月～令和4年3月）

コロナ禍で海外の医療機関等での臨床実習は叶わないため、米国医師免許試験（USMLE）対策の学習モジュールを活用した医学英語のグループ学習を毎週1回オンラインで開催した。

実施回数：23回 参加者数（延べ人数）：17名



### ・ English Café の開催（令和3年6月～令和4年3月）

本学課外活動団体のHOPEと共催し、学生が留学生との交流を深め、英語でのコミュニケーション力を伸ばすことを目的とした交流会を、飲食を伴わず感染防止対策を行った上で実施した。

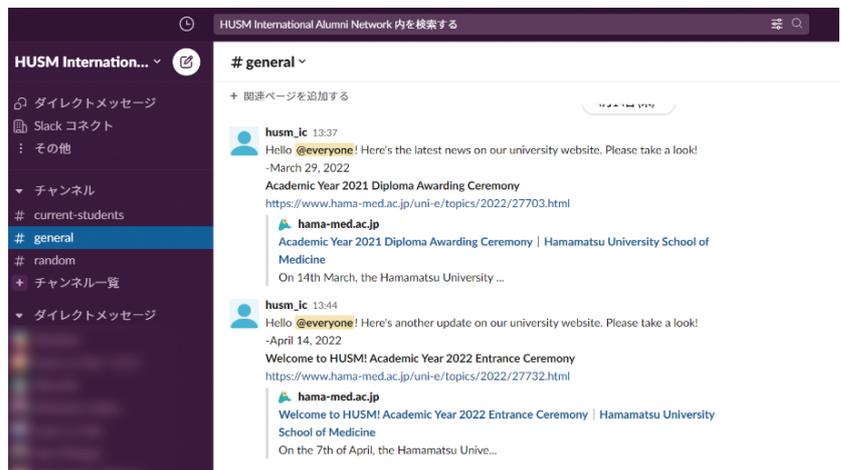
実施回数：6回



## ■ 卒業留学生のフォローアップ

コミュニケーションツール Slack を利用した“HUSM International Alumni Network”のチャンネルにて、本学の現状報告等の情報発信を行った。

＜ワークスペース 2022年  
10月1日現在参加者数＞  
卒業生 16名  
在学生 32名  
計 48名





## 学術交流協定校紹介



浜松医科大学は、10カ国20大学と大学間交流協定を結んでいます。(2022年10月現在)  
今回は2020年6月に協定を締結した、アメリカ合衆国のネブラスカ大学医療センターを紹介します。

ネブラスカ大学医療センターは1869年に設立され、1881年にオマハ医科大学として認可され、1902年にネブラスカ大学と統合しました。

ネブラスカ大学のキャンパスの1つであるネブラスカ大学医療センターは、オマハ校（メインキャンパス）、カーニー校、リンカーン校、ノーフォーク校、スコッツブラフ/ジェリング校のネブラスカ州境の両端から500マイルに及ぶ5つのキャンパスを所有しています。



プライマリーケアプログラムは全米で7位にランクインし、U.S. News & World Report誌のランキングでは、看護、理学療法、医師助手、薬学プログラム、およびオンラインの大学院看護プログラムが上位にランクインしています。ネブラスカ州の医師、歯科医師、薬剤師、学士号を持つ看護師、医療従事者の約半数がネブラスカ大学医療センターを卒業しています。



学 部：コメディカル学部、医学部、薬学部、歯科学部、看護学部、公衆衛生学部

学科数：約40（clinical perfusionなどのあまり知られていない専門分野から、常に需要の高い家庭医学分野まで）

大学院：資格課程、修士課程、博士課程

学位授与機関：癌・関連疾患研究のためのエプリー研究所、マンロー・マイヤー研究所

所在地：アメリカ合衆国ネブラスカ州

学生数（2021年秋）：4,387人

職員数（2021年11月）：6,010人（常勤換算で5,134.6人）



&lt; 東京旅行の写真 &gt;

## 留学生の言葉

大学院医学系研究科博士課程 4 年  
微生物学・免疫学講座

(中国出身) 刘 亮 Liu Liang

私の名前は劉亮（リュウ・リャン）です。中国河南省鄭州市の出身です。河南中医薬大学で中医学を専攻し、卒業しました。私は子供の頃から日本が大好きで、日本は世界でも有数の医療先進国であり、漢方医学における腹部診断の研究は非常に特徴的です。そこで、妻の劉傑と一緒に日本に留学することを思いつきました。メンターや友人の助けを借りて、浜松医科大学に入学することができました。

2018 年 10 月に妻と一緒に日本に飛び、浜松医科大学で博士号を取得するための勉強を始め、一緒に鈴木哲朗教授の研究室で実験的な研究を行いました。私が初めて日本に来たとき、きれいな都市環境と美しい自然環境は人々をリラックスさせ、幸せな気持ちにさせてくれました。人々は礼儀正しく、車は歩行者に道を譲り、スタッフは忍耐強く責任感があります。11月に学校主催の京都旅行に参加させていただきました。金閣寺と清水寺のツアーは印象的です。最も驚いたのは、日本での版画体験でした。多くの漢方薬のレシピは神話上の動物にちなんで名付けられているため、私は日本の神話上の動物のイメージに非常に精通しています。しかし、今の中国では、そのことを知っている人はほとんどいません。文化交流や継承の大切さを痛感しています。

研究期間中、日本人の研究姿勢の厳しさにため息をつき、一つ一つの操作、細部にまで気を配りました。同時に、日本人の勤勉さを嘆きました。早朝に実験をすることもあります。ほとんどの場合、他のメンバーはまだ作業中です。私の研究は、HCV 感染後の肝線維化の分子メカニズムに関するもので、現在、いくつかの興味深い発見があり、それらはさらに確認されつつあります。良い結果が得られることを

願っています。

勉強期間中、家族に新しいメンバーが加わり、とても幸せです。しかし、その後の新型コロナウイルスの発生により、すべての計画が打ち砕かれました。私たちの当初の計画では、子供が1歳になった後、子供の祖父母が中国で子供の世話をすることでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で帰国が難しくなったため、日本で勉強しながら子育てをすることにしました。子育ては大変ですが、子供の成長はとても嬉しいものです。学校にとっても近いみどり保育園に応募できてラッキーでした。また、日本政府からも多大なご支援をいただき、子供への助成金や新型コロナウイルス流行時の特別奨学金など、大変お世話になりました。日本政府と関係機関に感謝します。もちろん、奨学金の寄付者にも感謝しなければなりません。奨学金の支援のおかげで、私たち留学生は人生の困難を克服し、勉強と研究に集中することができます。

まだ研究は終わっていませんが、卒業後は日本で働きたいと思っています。最後に、中国と日本が協力と交流を強化し、医学研究に貢献できるように努力するとともに、新型コロナウイルスの流行が早く終息することを願っています。  
(留学生本人が作成した日本語文をそのまま掲載しました。)



&lt; はまつフラワーパークでの家族写真 &gt;

# 国際交流概況

## 外国人留学生数

令和2年度（2020年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	3	9		12
中国		16	1	17
ベトナム		4		4
インド		1		1
タイ			1	1
ルワンダ		2		2
計	3	32	2	37

令和3年度（2021年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	5	3	2	10
中国		18	1	19
ベトナム		5		5
インド		1		1
タイ			1	1
ルワンダ		2		2
計	5	29	4	38

令和4年度（2022年10月現在）

国名	大学院		研究生等	計
	国費	私費		
Bangladesh	4	5	1	10
中国		14	4	18
ベトナム		5		5
ルワンダ		2		2
パキスタン		1		1
スーダン		1		1
インド		1		1
計	4	29	5	38

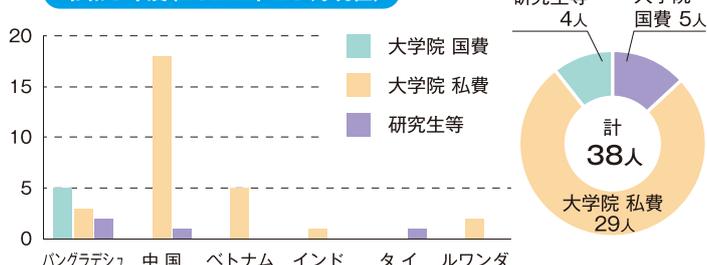
## 協定校等及びIFMSAによる交換留学生(受入れ)

国名	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
ブルガリア	1			
カナダ				
中国	2			
クロアチア	1			
フィンランド				
フランス				
ドイツ	2			
インドネシア	1			
イタリア				
マルタ				
ノルウェー				
オマーン				
ポーランド	8			
韓国	4			
ロシア	1			
スウェーデン	1			
スイス				
タイ	6			
イギリス				
アメリカ				
合計	27	0	0	0

令和2年度（2020年10月現在）



令和3年度（2021年10月現在）



令和4年度（2022年10月現在）



## 協定校等及びIFMSAによる交換留学生(送出し)

国名	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
ブルガリア				
カナダ				
中国	2			
クロアチア				
フィンランド				
フランス				
ドイツ	1			
インドネシア				
イタリア	1			
マルタ	1			
ノルウェー				
オマーン				
ポーランド	6			
韓国				
ロシア				
スウェーデン				
スイス				
タイ				
イギリス <sup>*1</sup>	2	1		
アメリカ <sup>*2</sup>	5	2		
合計	18	3	0	0

\*1 イギリス留学生は、医学教育振興財団からの支援

\*2 サマーワークショップも含む

(注)サマーワークショップは実施年度、それ以外の留学は単位認定した年度で計上した

### 【IFMSA について】

IFMSA (International Federation of Medical Students' Associations) (国際医学生連盟) は、WHO (世界保健機関) や WMA (正解医師会) によって正式に認められた医学生による非営利・非政治の国際学生 NGO です。「すべての医学生がグローバルヘルスのために団結し、将来の医療において地域、そして世界で活躍できるリーダーを育成する」ことを Vision として活動しています。この IFMSA の臨床交換留学プログラムにより、日本の医学生が海外の病院で臨床研修を行うとともに、現地の医学生との交流を通じて相互理解を深めています。また、留学生を受け入れて世界とつながる機会を持つことができます。